

兵庫県立有馬富士公園内福島大池での淡水カメ目視確認報告

廣田 編子

514-0041 大阪府大阪市中央区北浜1-1-21 (株)都市景観設計

Visual observation of freshwater turtles of Fukushimaoike pond in the Arimafuji park, Hyogo.

By Amiko HIROTA

Landscape & Urban Design Inc., 1-1-21, Kitahama, Cyuo, Osaka, 514-0041, Japan.

2016年3～5月に兵庫県三田市にある兵庫県立有馬富士公園(以下、公園)内の福島大池(図1)にて淡水カメの目視観察を実施した。なお、目視観察は、三田市有馬富士自然学習センター(以下、学習センター)が主催する月一回の子ども講座の下見を兼ねて実施した。観察方法は、園内のガーデン階段を下りて福島大池に到達した地点(図1中の①と⑥の間)から、時計回りに池を一周し、双眼鏡(8倍)による目視確認を実施した。観察は2016年3～5月に合計13回実施し、観察日は表1に示した。観察時間は、全日とも概ね午前10時半～11時半の間に実施した。なお、報告者は学習センターに2005年9月1日に着任し、2016年9月末まで在籍した(2016年10月より(株)都市景観設計に所属)。



図1. 淡水ガメの目視観察を実施した福島大池とその周辺地図

学習センター在籍中の2007年4月～7月に開催した企画展「里のカメたち～松久保晃写真展～」の担当となったことがきっかけで、淡水カメに興味を持ち、松久保氏に指導を請い、日本固有種であるニホンイシガメ(以下、イシガメ)、北米原産の外来種であるミシシッピアカミミガメ(以下、アカミミガメ)、クサガメの判別がおおよそ可能となった。

観察により目視されたカメは(表1)、延べ1203匹で、その内の96.2%はアカミミガメ1157匹であった。残りの3.8%はクサガメ及びイシガメで、それぞれ29匹、17匹であった。観察されたカメを図2に示す。観察日ごとにみると、いずれの日もアカミミガメが最も多く観察され、最も多く観察されたのは、4月22日の150匹で、発見数が少なかったのは、3月6日の20匹であった。一方、クサガメ及びイシガメは最も多く観察された日でもそれぞれ8匹、4匹発見されるのみであった。目視観察数は、ある程度生息数を反映していると考えられ(佐野他, 2013など)、福島大池には外来種であるアカミミガメが最も多く生息していると推測される。観察期間終了後の2016年5月14日には、「福島大池のカメしらべ」をテーマとした子ども講座を、兵庫県立人と自然の博物館の太田英利研究員を講師として招き、実施した。この講座の際に、太田氏によりウンキュウ(イシガメとクサガメの雑種と思われる個体)が5月12日の事前調査で2個体、講座当日の5月14日に1個体確認された(図2D)。このため、表1の発見個体数の記録には、ウンキュウが含まれている可能性がある。

表1. 2016年福島大池で目視確認したカメの種類と個体数, 気温

		観察日													計	%
		3/6	3/23	3/31	4/2	4/5	4/8	4/15	4/19	4/22	4/29	4/30	5/1	5/4		
気温 (°C)	11時 (観察時)	18.5	13.5	17	19.4	14.3	16.3	14.6	16.8	19.8	13.1	17.9	22	20.3		
	最低	6.9	0.7	4.6	8.9	6.5	8.5	4.1	3.1	12.8	4.5	1.9	6.8	12.9		
	最高	19.3	18.7	20.9	20.9	17.3	19	17.4	19.9	23.8	15.3	21.4	24.8	23.5		
発見 個体数	アカミミガメ	20	56	96	97	96	84	41	130	150	28	127	108	124	1157	96.2%
	クサガメ	0	0	0	1	1	0	1	0	8	1	8	7	2	29	2.4%
	イシガメ	0	0	0	0	1	0	0	3	3	0	3	4	3	17	1.4%
合計		20	56	96	98	98	84	42	133	161	29	138	119	129	1203	

※気温のデータは、国土交通省気象庁のサイトより三田市の観測地点のものを転記した。

今回の目視観察により福島大池にはアカミミガメが圧倒的に多いことが明らかとなった。企画展を開催した2007年ごろ、公園内ではクサガメをよく目にしたが、ここ数年でカメ相は急激に変化したことが推測された。福島大池の周囲は人の転落防止のための柵が設置されているが、カメは池と公園内を自由に出入りができると、公園内の管理者による巡回の際、アカミミガメが産卵していると思われる様子が目撃されている。また、来園者が園内で捕まえた幼体を持ってきたことも数回あり、本調査でもアカミミガメの幼体が確認されていることから(図2B)、福島大池近辺では本種は繁殖していると推測される。一方で、公園内でわずかに目撃されるクサガメには甲羅のキールが擦り切れた老齢と思われる個体が複数存在するものの、繁殖を示す情報はない。イシガメについても同様である。またイシガメは人目につきにくい場所、または人が近づきにくい場所で甲羅干しをしていることが多い。このためイシガメは確認される数が過少評価されている可能性もあるが、アカミミガメに比べて圧倒的に少ないことは確かである。

有馬富士公園は、2001年に開園し、全体面積416.3haを占める公園の立地特性は多様性に富む。いくつか例示すると、奈良時代に行基が築堤したといわれる大規模な灌漑用池である福島大池やその周辺に位置する小規模なため池、棚田や湿地、小河川が存在する(久下,2004)。また、公園の敷地の大半は里山としての二次林が占め、1960年代まで薪炭林であったアカマツ・コナラを主とする雑木林を中心に、湿地や水田、畑地、草地、ため池がモザイク状に配置された多様な生息環境が残されている(服部,2003)。植物ではサクラバハノキ、サワシロギク、両生類ではモリアオガエル、ヒキガエル、カスミサンショウウオ、昆虫類ではギフチョウ、ムカシヤンマ、カタツムリトビケラなど、多様な希少種が生育・生息することから、兵庫県レッドリストにおいて重要な生態系として選定されている(兵庫県,2011)。イシガメはこのような里山を好んで生息することが知られているため、かつては福島大池にも多く生息していたことが推測されるが、今回の目視結果よりここ数十年の間にアカミミガメに置き換わったことが推察される。イシガメを含めた固有の生態系保全のためには、何らかのアカミミガメ対策が実施されることが望まれる。

謝辞

本稿を書くに至るまでにご指導いただいた太田英利氏、松久保晃作氏、両氏に厚く御礼申し上げます。

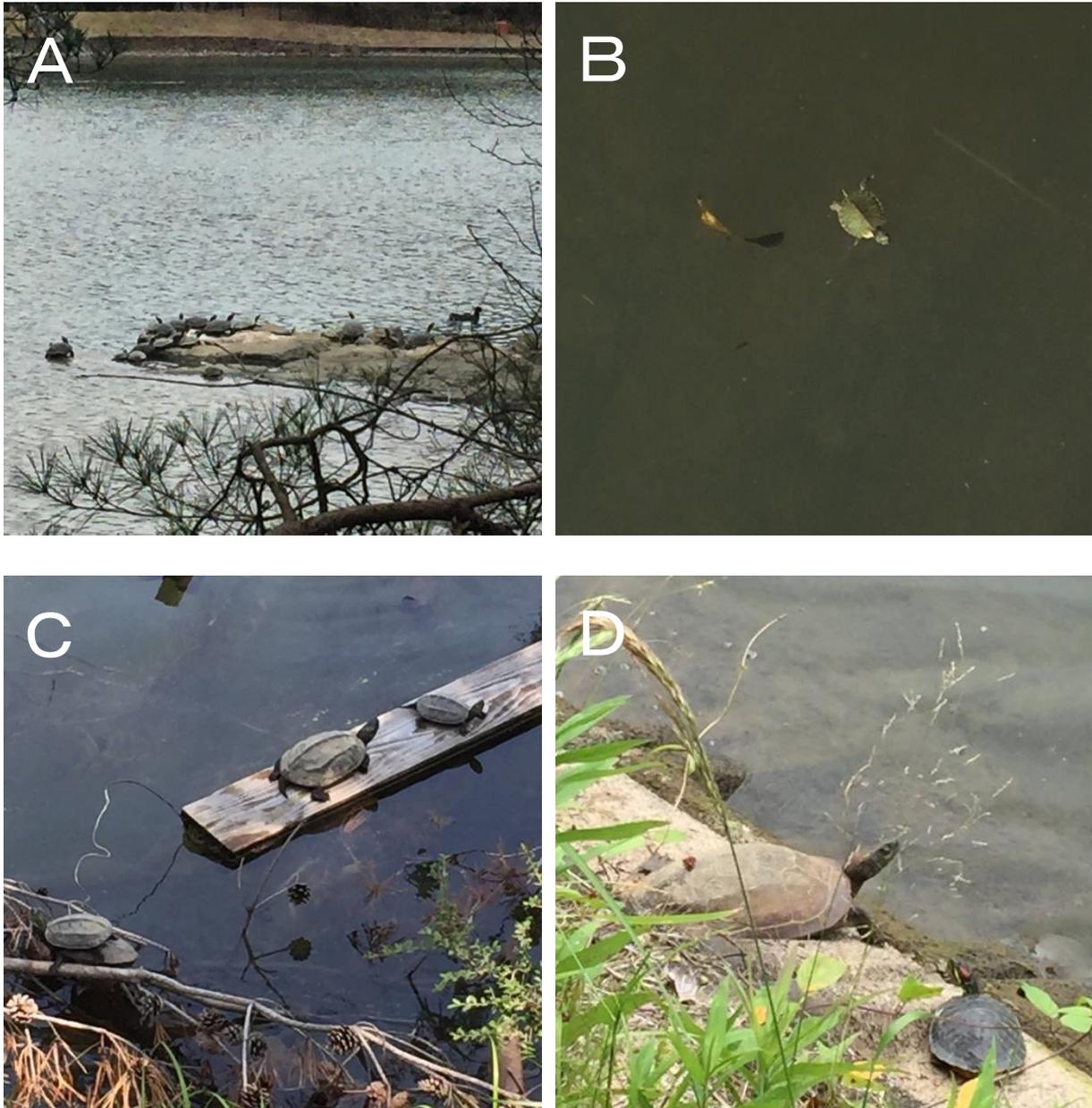


図2. 福島大池にて目視確認された淡水カメ
 A: アカミガメ 2016年3月6日撮影
 B: アカミガメの幼体 2016年4月19日撮影
 C: クサガメ 2016年4月30日撮影
 D: イシガメとクサガメの雑種と思われる個体 2016年5月26日撮影

引用文献

- 佐野純也・谷口真理・岡本慶. 2013. 大阪平野淀川支流の船橋川での淡水カメ目視調査. 亀楽6: 12-13.
 兵庫県. 2011. 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2011(地形・地質・自然景観・生態系)
<http://www.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2011/index.html>
 服部保. 2003. 第5章植生. 三田市史第10巻地理編. 三田市, 287-336.
 久下正史. 2004. 第4章第2節2行基. 三田市史第9巻民俗編. 三田市, 491-493.